

平成 26 年度第 2 回岩手県健康いわて 21 プラン推進協議会会議録要旨

日 時：平成 27 年 2 月 5 日（木）13 時～14 時 30 分

場 所：プラザおでつて 3 階大会議室

出席者：別紙名簿のとおり

傍聴者：一般 2 名

1 開会

2 あいさつ

【紺野副部長】

- ・委員の皆様におかれましては、御多忙のところ御出席を賜り、また、日頃から本県の健康づくりの推進に御尽力いただいておりますことに厚く御礼申し上げます。
- ・本県が有する様々な健康課題へ対応するため、委員の皆様から多大なる御協力をいただき、昨年 3 月に第 2 次健康いわて 21 プランを策定したところである。特に、脳卒中死亡率は男女とも全国ワースト 1 にあり、本県の喫緊の健康課題であることから、今年度は、「脳卒中死亡率全国ワースト 1 からの脱却」を図るため、7 月には「岩手県脳卒中予防県民会議」を設置し、11 月には「岩手県脳卒中予防県民大会」を開催するなど、脳卒中予防に係る普及啓発活動を中心として様々な取組を推進してきたところである。
- ・また、昨年 3 月には「岩手県口腔の健康づくり推進条例」を制定し、7 月には、同条例の実施計画となる「イー歯トープ 8020 プラン」を策定し、口腔の健康づくりの推進も図ってきたところである。
- ・健康づくりの推進にあたっては、県民の主体的な健康づくりを支援する社会を目指すため、行政機関のみならず、企業や民間団体等の積極的な参加・協力を得ながら進めていくということが、取組み課題の一つでもある。
本日は、健康づくりの取組み状況について御報告申し上げますが、第 2 次プランを推進するための関係機関・団体等の連携による取組みの推進について、御意見をいただきたいと考えている。

3 委員紹介

4 会長、副会長選出

会長に小原紀彰 委員を選出

副会長に佐藤 保 委員を指名選出

5 議事

(1) 健康いわて 21 プラン（第 2 次）目標一覧について

（資料 1 により説明 山内主任主査）

【意見等】

（佐藤副会長）

- ・医療計画の進捗状況によっては健康いわて 21 プランの第 2 次計画の方にも、ある程度影響があると考えた方がよろしいのか、それとも 21 プランは 21 プランとして進めていくと考えた方がよろしいのか。

（事務局）

- ・他の計画と調和・整合を図っていくということにしているので、この計画はこの計画ということではなく、特にも平成 29 年に中間評価の予定をしているので、他の計画の状況も踏まえながら、委員皆様からのご意見等も承っていくことになろうかと思う。

(2) 健康づくり取組状況等について

① 脳卒中対策の推進状況等について

(資料2により説明 山内主任主査)

② 口腔の健康づくりの推進状況について

(資料3により説明 森谷医務主幹)

【意見等】

(菅原委員)

- ・確認ですが、資料2-2の(2)の脳卒中予防県民会議への参画団体の欄に県内市町村は含まれていないようである。県民運動なので広がりが必要であり、広がり部分では、事業所としての県は、県内最大の事業所である。市町村は健康運動の実施団体であると共に、それぞれの市町村での最大の事業所である。実は私ども国保連合会も事業所である。県民運動なので、ぜひ行政主体という意味ではなく、事業所として参加されれば広がりがあると思うので、ご検討いただければと思う。

(事務局：山内主任主査)

- ・行政主体ではなく自治体ではありますが事業所という位置づけでというお話しであり、検討させて頂きたいと思う。

(豊巻委員)

- ・資料2-2の7ページに全国ワースト1という表現があり、この運動の取組みというのがあるが、確かに岩手県はワースト1であるが、(年齢調整死亡率の都道府県比較の図)数字の意味をもう少し詳しく教えてほしい。確かに岩手県は悪いんだと思うが、例えば全国平均との差を見た場合には、その数字が持っている意味がどういう意味なのかが分からないと、これからの取組みへの励み等もあると思う。まさか全国ワースト2になれば成功という話しでもないだろう。女性37.1、男性70.1のその年齢調整死亡率の意味するものを教えていただきたい。

(事務局：山内主任主査)

- ・考え方として、都道府県別に比較する際に、年齢の構成を一律の考え方に置き換えるために年齢調整死亡率、年齢調整というカタチで、各都道府県を比較できるようにしている。単純に岩手県の脳卒中中の死亡の状況と東京都の死亡の状況との比較では、人口構成や高齢化率も違うため、そのままでは比較にはならないため、ある一定の算定方式をとって年齢調整をかけて、その上で全国的な比較ができるようにしている。そういう考え方をもとにでた数値が、岩手県が30.1であったりということである。その結果でもって平成22年の脳血管疾患の年齢調整死亡率でいけば岩手県が一番高かったということである。

(豊巻委員)

- ・まったく分からないので。指標だということだから確かにワースト1なんですね。

(事務局：佐藤担当課長)

- ・年齢調整の部分につきましては、各都道府県ごとに、例えば高齢者の割合とか年齢構成がだいぶ違うため、その年齢構成をあるモデルの年齢構成にそれぞれ当てはめてやるというのが年齢調整というふうに理解している。そのモデルに当てはめて死亡率を調整した結果で全国の比較をするということになる。この70.1という数字は、人口10万人あたり70.1で、「人」とつけたところであるが、表す時には「人」という単位をつけないということになっている。「人」とつけると多分わかり易いのかなと思う。

(副会長)

- ・10万人単位を指標として出している。

委員からもお話しがあったが、死亡率がワースト2になればいいんだということではないという話があったが、これは前の会でも議論があったところであり、目指すところが何なのかを続けてお話いただければありがたい。

(事務局：佐藤担当課長)

- ・前回は2位になればいいというものではないという話があり、おっしゃるとおりであると思う。それでは、どこを目指すのかということであるが、ここについてはまだ指標としては具体的なものは作っていない。そう簡単に下がったり上がったりするような数値ではないと認識している。一方で、毎年下がり続けているのは確かであるが、ここを目標にという形でやっても、例えば70.1を60にするという目標にしたとしても、全国順位の中でみた場合に依然としてワースト1のままの可能性もあるわけであり、全国順位を指標にというのは考えていないし、70.1自体をどうするというのも現時点では考えていない。活動の中で少しでも数値を良くして、結果として全国順位がワースト1からの脱却となればいいということであり、まず、県民運動を始めることが一番大事なところだと考えている。

県民会議は、そういう形で県民運動として皆さんの方向を同じ方向に向いて頂くというような取組みをしていきたいと考えている。

(副会長)

- ・脱却をするための取組みをしましょうというところから、さらに進めていきましょうという理解だったと思う。

県民会議をやって知らせましょうという話になってきた。本当に県民に知らされているのかという話が大事な視点になってくると思う。小山委員に公募委員のお立場から、今日の取組みについて、視点としてご参考になるものがあればお話しいただければと思うがいかがか。

(小山委員)

- ・食改の活動に参加し、その中で味噌汁の塩分測定を行っている。文化祭とか各地域ごとに調理実習などを行って、その時に味噌汁を持って来て頂いて塩分測定するが、意外と値が低い。それと中学校の調理実習に伺って子供達の家庭の塩分調査もするが、それも意外と低く、室根ではみんな薄味が多いようだという話を食改内でしたりする。また、文化祭などで、一日でこれだけの野菜を食べれば大丈夫ですよという見本を出す、するとその際に「うちでは野菜いっぱい摂ってるから大丈夫だよ」と言う話がでる。それと1人暮らしのお宅にも、食改とか地域の人達で個別に訪問して声がけしたり、見守る際にも、塩分について話をしたりしている。

(副会長)

- ・そういう取組みをされているということが各地で広がっていくということも大事だと思う。

(松本委員)

- ・健康21プランもいろいろなところで活動しているが、県民の方に知れ渡って、自分たちがこういうことをしているということが非常に大事だと思う。その中で、先ほど事務局から話があったとおり、私ども協会けんぽも岩手支部だけでも17,000ほどの事業所と41万人の加入者、直接働いている方は26万人くらいいるが、そこに毎月広報を出して、出しているものの中に岩手県さんの活動、健康21プランを中心として脳卒中対策を含めていろいろ広報でお知らせしている。まだまだこれでも十分ではないと考えている。いろいろな面で、いろいろな場でマスコミにもなるべく取り上げてもらえるようにということであることが大事と考えている。

一方で協会けんぽは17,000人、事業所と約41万人の方のデータを持っているので、岩手県さんと

も提携し、歯科医師会とも歯の健康と成人病の関係で調査等やっているが、医師会さん、薬剤師会さん、市町村などいろいろなところで、協会けんぽのデータを使って研究、調査をし、それをできる限り岩手県の方に知らせることで、多くの方に関心を持っていただけるようにしたいと考えている。

(小笠原委員)

- ・大人になってからなかなか塩分を減らすことは難しいのではないかと思う。学校給食とかで試験的に塩を減らしたような何か機会を設けてみて、子どもの反応を見てみる、あるいは、家に帰って今日の給食は少ししょっぱくなかったけどおいしかったよというふうな感想が出るような給食メニューといただけますか、そういうふうなものを考えていけないのかなと思っている。もう一つは、県立大学との共同研究について、研究テーマと研究スケジュールについて、計画書を出された時点でどういうふうになっていたか教えていただきたい。

(事務局：佐藤担当課長)

- ・県立大学の看護学部と共同研究の形になる。内容については、今回は県民会議ということで多くの構成団体の皆さんに参画していただくことなので、その中には事業所の方も非常に多いということもあり、そういった事業所の皆様が今まで健康についての取組みをされていたと思うが、そこに係る課題の抽出を、取組みの状況の調査とその際の課題はどういうことかということ抽出するというのが一つである。それらと、さきほど協会けんぽの松本委員からお話し頂きましたが、我々の方にはご協力を頂きまして様々な健診データがございますので、そういったデータとの突合もできないかどうかということも研究テーマとして、最終的には脳卒中のみならず生活習慣病全体の改善のために、あるいは団体として取り組んでいくための何か方法が見えればよいということ取り組んでいる。スケジュール的には、年末に県立大学の方に採択をいただき、年明け早々に契約したところであり、これからまずアンケートという形で調査が入るので、調査項目を2月から3月にかけて内容を詰めて、年度明け以降に皆様のところも含めて照会をさせていただき、期間が9月までとなっているので、それまでの間に取りまとめていきたいと考えている。

(副会長)

- ・まさに岩手では、産官民の取組みについて、そういう推進はお願いしたいところだと思う。

(3) 健康いわて21プラン（第2次）の推進に関する健康づくり関連事業調査について

(資料4により説明 佐藤主査)

(副会長)

- ・それではご協力のほどよろしく願います。不明な点は、県の方に後日お問い合わせいただければと思う。その他事務局の方から何かあるか。

(事務局：佐藤担当課長)

- ・今後のスケジュールについて、次年度は5月～6月にかけて1回目の推進協議会を開催させていただき予定としている。内容については、専門委員会の開催時期も踏まえ、改めてお知らせさせていただく。